

②教育研究業績書

令和7年5月1日 氏名 橋 本 淳 一 			
認定を受けようとする課程における担当授業科目			
領域及び保育内容の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目
		・教育方法・技術論（オムニバス）	・実習指導Ⅰ（複数） ・保育・教職実践演習（幼稚園）（複数）
教育上の能力に関する事項			
事項	年 月	概要	
1 教育方法の実践例 ①つどいの広場や幼稚園での保育実践フィールドワーク	平成23年10月～	「保育・教職実践演習（幼稚園）」において、幼稚園教諭・保育士として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身につけるとともに、その資質能力の全体を確認するため、近隣の東松幼稚園ほかでグループによる教育・保育実践（模擬保育）のフィールドワークを企画・指導・運営した。	
②科学遊びアレコレ	平成26年6月～12月	「スキルアップセミナーⅠ・Ⅱ」の専門コース別学習で保育内容（環境）に因む3つの科学遊び、①風とあそぶ～まんまる紙ヒコーキ／ビニール袋ロケット、②不思議な感触を楽しむ～手作りスライム、③水と空気に親しむ～色水／シャボン玉について、授業の進め方、指導法や指導上の留意点について演習の中で指導した。	
③石坂幼稚園「お誕生日会」	平成26年7月	「基礎演習・スキルアップセミナーⅠ」での担任クラス学生有志を組織して、幼稚園のお誕生日会ゲストとして、ミッキーマーチ体操、大型絵本の読み聞かせなどのショーを企画し、進め方や指導法について実践的に指導した。	
④埼玉育児院「クリスマス会」	平成27年12月～	「児童家庭福祉」履修者から有志を募り、児童養護施設でのクリスマス会に出演し、ペープサート上演や折り紙・まっぼっくりツリー作りのアトラクションを行い、施設の子どもたちと学生との交流を図った。	
⑤遠足研究	平成28年5月～7月	「総合演習」のクラスゼミ活動で、重要な園行事であり保育活動でもある遠足についてその意義をふまえ、園での遠足を想定して、大学周辺の代表的な遠足先である「子ども動物自然公園」（東松山市）、「森林公園」（東松山市）、「嵐山溪谷」（嵐山町）の3か所を目的地に、学生自身が“自然や文化などに親しむための遠足”等任意にテーマを設定	

様式第4号（教員個人に関する書類）

⑥児童文化財研究	平成 28 年 5 月 ～	して、企画・立案、しおり作成、記録、振り返りを行う体験的な学びを行った。 「スキルアップセミナーⅠ・Ⅱ」の学習ゼミで、ペープサート、エプロンシアター、パネルシアター、絵本等の児童文化財の作品づくりを個人またはグループで行い、その製作過程や上演を通して子どもの言葉の発達や、知識や感性、想像力、社会性や道徳性などを育てることを目指した実践的な学びを指導した。
2 作成した教科書・教材 ①『2017 実習ガイドブック』 ＊平成 20 年度初版以降、各年度実習担当教員で毎年改訂刊行中。	平成 29 年 4 月	教育実習、保育実習、施設実習について、大学の実習スケジュールに沿って、実習の目的、手続き、実習内容、保育の観察法、日誌の書き方、指導案の立て方・書き方、保育実践、部分・責任実習の行い方、保育の評価、実習の振り返り等について概説した。
②『さまざまな製作、集団遊び指導案事例集』	平成 28 年 3 月	「クラス運営と教材研究Ⅰ・Ⅱ」の授業において、身近な素材を使ったさまざまな製作とルールのある集団遊びの指導案をグループ単位で作成するとともに、実際にロールプレイを行い学生の保育現場における実践力の育成に努め、その成果物として指導案事例集を取りまとめた。
3 教育上の能力に関する 大学等の評価		文学修士(社会学専攻)を有し、本学では実習科目と福祉系科目を担当。つどいの広場子育て教養講座の企画運営の他、地域の幼稚園、保育園、小学校との教育交流や町の委員会、学会発表等で力量を発揮している。
4 実務の経験を有する者 についての特記事項 ①出前講座	平成 20 年 9 月 ～	埼玉県立誠和福祉高校「家庭科」の授業で外部招へい講師として色画用紙の輪っかとストロー2本で紙ヒコーキを製作する演習「風とあそぶ～まんまる紙ヒコーキ」を行う。 ＊以降同様の講座を、川越初雁高校、松山女子高校、山村国際高校、浦和第一女子高校、狭山緑陽高校、鴻巣女子高校、小川高校、鳩山高校、寄居城北高校、日高高校、富士見高校で行った。
5 その他		特記事項なし
職務上の実績に関する事項		
1. 資格、免許		特記事項なし
2. 学校現場等での実務経験		特記事項なし

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

3. 実務の経験を有する者についての特記事項		特記事項なし
4. その他		
①審議会委員等	平成 23 年 6 月 ～24 年 3 月 平成 24 年 6 月 ～27 年 3 月 平成 25 年 10 月 ～27 年 3 月 平成 25 年 4 月 ～26 年 3 月 平成 30 年 10 月 ～ 令和 5 年 4 月 ～令和 6 年 3 月	鳩山町教育基本計画検討委員会委員 鳩山町次世代育成支援対策地域協議会委員 鳩山町子ども・子育て会議委員 一般社団法人短期大学基準協会 第三者評価評価員 鳩山町福祉健康・多世代交流複合施設運営協議会委員 （継続中） 一般財団法人大学・短期大学基準協会 短期大学認証評価 評価員
②競争的資金等の研究	平成 24～26 年 度 令和元年 5 月～ 令和 2 年 3 月	科学研究費助成事業・基盤研究（C）【課題番号 24530773】 研究課題：「社会資源を活用した町型子ども・子育て支援 ネットワークのあり方に関する研究」 研究代表：鈴木孝子、共同研究者：橋本淳一、村石理恵子、 羽岡佳子、山村穂高 令和元年度文部科学省委託研究「幼児教育の教育課題に対 応した指導方法等充実調査研究」 研究代表：太田俊己、委員：酒井幸子、守巧、橋本淳一、 他全 18 名
③講演会講師・シンポジウム パネラー等	平成 29 年 1 月 平成 29 年 6 月 令和元年 7 月 令和 6 年 9 月	埼玉県鳩山町児童虐待を考える講演会講師「どこからが虐 待か？何が育児不安を起こすのか？～子育てを巡る 2 つ のアンケート調査結果から考える～」（主催：鳩山町 会 場：鳩山町役場会議室） 第 55 回埼玉県保育研究大会第一分科会「新たな時代の保 育実践」助言者（主催：埼玉県 他 会場：本庄市文化会 館） 令和元年度第 2 回子ども大学はとやま講師「風とあそぶ」 （主催：鳩山町教育委員会） TJUP 学生交流イベント交流委員会共同 FD・SD 「大学教育 への学生参画～学生（SA）の授業参画や各大学の活動から 考える～」事例報告「教育サポートスタッフによる実習 報告会の運営」
④外部団体招聘公演企画 1 人形劇団プーク「“もりの へなそうる” 併演 “春・夏・ 秋・冬～森の四季～”」	平成 25 年 4 月	鳩山町つどいの広場“ぽっぽ”開設 5 周年記念事業の一環 として、日本で有数の人形劇団プークを招いて、鳩山町ふ れあいセンターでの人形劇公演を企画・運営した。

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

2 「ロバの音楽座」 コンサート	平成 26 年 1 月	鳩山町つどいの広場“ぽっぽ”開設 5 周年記念事業の一環として、鳩山町文化会館に NHK『おかあさんといっしょ』出演等で著名な「ロバの音楽座」を招いて、幼児・児童向けの音楽ショー公演を企画・運営した。
3 人形劇団ブーク「“おれはママじゃない”併演“プー吉・チビのミニミニ劇場”～	平成 26 年 11 月	山緑祭（大学祭）でのイベントとして、前回の公演も好評を博した人形劇団ブークを再度招き、学内芙蓉館ホールでの上演を企画した。
4 キッズスマイルカンパニー「ちゃりー&やっしーwith たなちゅう 親子ふれあいコンサート」	平成 30 年 1 月	鳩山町つどいの広場“ぽっぽ”開設 10 周年記念として、鳩山町地域包括ケアセンター地域交流のスペースを会場に、地域の親子だけでなく幼稚園等の子どもたちも招いて、キッズスマイルカンパニー「ちゃりー&やっしーwith たなちゅう」の親子ふれあいコンサートを企画、運営した。

担当授業科目に関する研究業績等

担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概要
教育方法・技術論	(著書) 1. 『基本保育シリーズ第 20 巻保育実習』	共	平成 27 年 12 月	中央法規出版 (268 頁)	保育実習に臨む学生のための養成校における保育実習事前事後指導のテキスト。担当章は「第 14 講 施設における養護内容」で、施設の子 <u>どもたちを健やかに育てるための 個別の支援計画や学習習慣、生活の 質を高める工夫など、その支援や援助の 実際を解説した。</u> 編者：近喰晴子、寅屋壽廣、松田純子、共著者： <u>橋本淳一</u> 他全 20 名 (159-172 頁)
	2. 『2017 実習ガイドブック』 ＊平成 20 年度初版以降、各年度実習担当教員で毎年改訂刊行中	共	平成 29 年 4 月	山村学園短期大学 (131 頁)	教育実習、保育実習、施設実習について、大学の実習スケジュールに沿って、 <u>実習の目的、手続き、実習内容、保育の観察法、日誌の書き方、指導案の立て方・書き方、保育実践・部分責任実習の行い方、保育の評価、実習の振り返り等</u> について概説した。共著者： <u>橋本淳一</u> 、相沢和恵、黒澤一幸、室井佑美、山崎昌子（共同執筆により抽出不可）
	(教育実践記録等) 1. 「幼児の心を育てる保育者養成の実践的研究～授業改善に向けて～」	共	平成 22 年 3 月	平成 21 度 山村学園短期大学子ども教育センター調査研究事業報告	平成 22 年度の新カリキュラム施行に備えて本学保育学科が行っている <u>授業内容や授業方法、技術等を整理、見直しを行うこと</u> によって、今後の授業改善を図る研究。担当章は「§ 7 科学あそびを通して環境と

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

				書 (61 頁)	関わる心を育てる」で、保育内容・環境の授業、特に <u>科学あそびを中心</u> に <u>子どもの心を育てる教育実践の諸条件を考察した</u> 。共著者：三好勝、野口一夫、 <u>橋本淳一</u> 他全 8 名 (45-52 頁)
2. 「子どもの遊び・遊び場と地域子育て支援～つどいの広場利用者のグループインタビューから～」	共	平成 24 年 9 月	全国保育士養成協議会第 51 回研究大会研究発表論文集 (556 頁)	地域子育て支援拠点事業（ひろば型）の利用者を対象としたグループインタビューから、特に <u>子どもの遊びや遊び場に関するニーズを探り、公園整備、屋外の遊び場に対するニーズが高い実情を指摘した</u> 。共著者：村石理恵子、 <u>橋本淳一</u> 、羽岡佳子、鈴木孝子 (550-551 頁)	
3. 「特別支援に配慮したこれからの保育者養成カリキュラムをめぐって」	共	平成 30 年 3 月	武蔵野短期大学研究紀要第 32 号 (80 頁)	<u>特別支援に配慮したこれからの保育者養成カリキュラムをめぐって</u> 、多様な視点から考察した。担当章では「Ⅱ. 実習、授業内容、採用後のギャップ等の諸問題」として、 <u>特別支援に関わる 2 年生の養成校における実習指導や当該科目の授業内容、実習現場での関わり、卒業後の悩み等について検討した</u> 。共著者：浅川茂実、 <u>橋本淳一</u> 、酒井幸子他全 7 名 (47-56 頁)	
4. 「障害のある子を含む保育のカリキュラム・マネジメントをめぐって」	共	平成 30 年 10 月	関東学院大学人間環境学会紀要第 30 号 (95 頁)	<u>障害のある子を含む保育のカリキュラム・マネジメントに関し</u> 、さまざまな立場から論じた。担当章では「7. 全体考察」として、全体の論点を整理し、カリキュラム・マネジメントの観点から保育を見る視点の有効性を確認するとともに、 <u>保護者・家庭や専門家・外部資源との連携・協働等に言及した</u> 。共著者：太田俊己、 <u>橋本淳一</u> 、中澤潤他全 8 名 (79-95 頁)	
5. 「幼稚園・保育所・認定こども園のインクルーシブな保育のカリキュラム・マネジメントを探る」	共	令和 2 年 3 月	山村学園短期大学紀要 30 号 (35-54 頁)	幼稚園・保育所等における障害がある子どもやいわゆる気になる子、その他その生活上に何らかの困難がある子ども等の特別の支援を必要とする子どもを含めた <u>インクルーシブな保育のカリキュラム・マネジメントの実際に関し</u> 、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる	

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	6. 「子どもの遊びにつながる秘密基地の存在－保育者へのインタビューを通して－」	共	令和 4 年 3 月	山村学園短期大学紀要 32 号 (55 頁)	こと」という側面に着目して 4 つの事例報告からその実情を検討した。共著者：橋本淳一・相沢和恵・足立祐子・中野圭子・酒井幸子 大学内に設置した秘密基地での遊びを園児が <u>実際に体験することで</u> の、 <u>子どもたち自身や遊びに関してその作用や効果</u> について、引率の幼稚園教諭へのインタビューを通して質的コーディングの手法で検討した。共著者：酒井誠、巢立佳宏、山村穂高、橋本淳一 (- 頁)
--	--	---	------------	------------------------	--

実習指導 I・II・III	(著書) 1. 『2017 実習ガイドブック』	共	平成 29 年 4 月	山村学園短期大学 (131 頁)	(再掲のため、略)
	(教育実践記録等) 1. 「指導計画立案を伴った部分・責任実習での主活動の内容～保育実習Ⅱ報告書の記述からの検討～」	単	平成 22 年 3 月	山村学園短期大学紀要 21 号 (85 頁)	実習現場において学生たちが実際に指導計画を立てて行った <u>部分・責任実習の主活動について</u> 、 <u>保育者と子どもの関係に遊びの種類による「ゲーム・運動遊び」「シアター」「製作」の 3 分類のモデルと</u> 、 <u>保育内容 5 領域の 5 分類のモデルとの 2 種類の分類モデルからその内容を分析した。</u> (26-37 頁)
	2. 「形態素解析を用いた幼稚園教育実習における実習成果と課題に関する研究」	共	平成 28 年 3 月	山村学園短期大学紀要 26 号 (144 頁)	教育実習を選択した実習生 76 名を対象とした自由記述式の質問紙調査から、形態素解析を用い <u>実習生の意識・能力の育成に繋がる事前指導と事後指導のあり方について</u> 考察した。共著者：田村美由紀、橋本淳二、石田道子、室井佑美、黒澤一幸 (1-10 頁)
	3. 「ピアノのスキルは実習でどこまで求められているのか？～どんな曲をどのくらい弾けているのか～」	共	平成 28 年 8 月	全国保育士養成協議会 第 55 回研究大会研究発表論文集 (348 頁)	実習後の「実習報告書(ピアノ)」のデータから、 <u>保育者養成課程の実習において実習生がどんな曲を弾いているのか、どのレベルで弾いているのか、その実態について明らかにするとともに、実習で求められるピアノのスキルについて</u> 考察した。共著者：橋本淳一 福泉博子 (239 頁)

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

4.「テキストマイニングを用いた幼稚園教育実習生の障害児・気になる子への認識と対応の分析」	単	平成 30 年 3 月	山村学園短期大学紀要 28 号 (55 頁)	特別の支援が必要な子どもに対する保育実践をめぐる調査研究で、学生の <u>幼稚園教育実習現場における障害児や発達障害など気になる子との関わりの経験と、その障害児・気になる子への認識と対応の実態</u> をテキストマイニング分析から把握し、 <u>今後の保育者養成や実習指導で求められる障害・特別支援への対応を考察</u> した。(37-55 頁)
5.「障がい・特別支援にも強い保育者養成をめぐる」	共	平成 30 年 3 月	関東学院大学人間環境研究所所報 第 16 号 (57 頁)	現在そして今後求められる保育者 <u>養成の課題の一つとして、障がいや特別支援への対応がある</u> ことを指摘し、そうした保育者養成ができる <u>カリキュラムや研修のあり方</u> について事例を基に検討した。担当章の「1. 保育者養成校の現状から」では、 <u>養成校における障がい・気になる子等に関する学修の過程・内容や実習現場での学生の対応状況等</u> の実態を明らかにし、その <u>課題を指摘</u> した。共著者：太田俊己、橋本淳一、広瀬由紀他全 6 名（41-57 頁）
6.「実習についての巡回指導の役割と課題」	共	令和 4 年 3 月	山村学園短期大学紀要 32 号 (55 頁)	実習指導における <u>巡回指導の実態と実情</u> に関する学生の <u>実習報告書のデータから、巡回指導やその内容の実態の把握と、データ主導的にその巡回時の学生と教員の面談の内容等の類型化</u> を行った。共著者：巢立佳宏、酒井誠、山村穂高、 <u>橋本淳二</u> （33-46 頁）
7.「実習における学生にとって有用な巡回指導のあり方について」	共	令和 4 年 5 月	日本保育学会第 75 回大会発表論文集 (1028 頁)	<u>実習巡回</u> の際に教員が記す半構造化された各学生の個人票の記述内容についてテキストマイニングを用いて分析を行い。実習生に対しては意欲的、積極的に取り組む態度が求められ、教員もこれを <u>実習生に促す言葉がけ</u> に重点が置かれている実態を把握できた。共著者：橋本淳一、巢立佳宏、酒井誠（981-982 頁）

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

保育・教職実践演習(幼稚園)	(著書) 1.『2017 実習ガイドブック』	共	平成 29 年 4 月	山村学園短期大学 (131 頁)	(再掲のため、略)
	(教育実践記録等) 1.「指導計画立案を伴った部分・責任実習での主活動の内容～保育実習Ⅱ報告書の記述からの検討～」		平成 22 年 3 月	山村学園短期大学紀要 21 号 (85 頁)	(再掲のため、略)
	2.「子育ての悩みと保育園・幼稚園における支援の研究」	単	平成 20 年 5 月	日本保育学会第 61 回大会発表論文集 (837 頁)	埼玉県鳩山町で行った調査をもとに、0 歳から就学前の子どもを持つ保護者の日常的な <u>子育ての悩みについて分類を行うとともに、これに対する保育園・幼稚園の支援のあり方について考察した。</u> (242 頁)
	3.「指導計画立案を伴った部分・責任実習での主活動の内容～保育実習Ⅱ報告書の記述からの検討～」	共	平成 22 年 3 月	山村学園短期大学紀要 21 号 (85 頁)	(再掲のため、略)
	4.「町の子ども子育て自然環境と社会資源を踏査する～B 町子ども・子育て支援ネットワーク調査に関連して」	共	平成 27 年 9 月	全国保育士養成協議会第 54 回研究大会研究発表論文集 (340 頁)	「社会資源を活用した町型子ども・子育て支援ネットワークのあり方に関する研究」に関連して、 <u>子ども・子育て支援に関わる地域の自然環境や社会資源（特に保育施設、公園など）を対象に実際に踏査</u> することで、そこで子育てをする人々にとっての <u>生活資源や社会環境へのアクセスビリティを考察した。</u> 共著者：橋本淳一、村石理恵子、山村穂高 (328 頁)
	5.「実習及び養成校での授業内容、採用後のギャップ等の諸問題」	共	平成 29 年 5 月	日本保育学会第 70 回大会 (1314 頁)	《自主シンポジウム》「特別支援に配慮したこれからの保育者養成カリキュラムをめぐる」の中で、 <u>養成校における障害に関する教育の少なさ、実習での障害児の保育の困難さ、就職後の戸惑の実情</u> などを報告した。シンポジウム参加者：浅川茂美、相沢和子、中野圭子、橋本淳二、藤井恵美子、室井佑美 (89 頁)

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	6. 「特別な配慮 必要とする幼児 を含む教育・保育 の実践課題に関 する実態調査」	共	令和 2 年 3 月	関東学院大 学 (103 頁)	令和元年度文部科学省委託研究「 <u>幼児教育の教育課題に対応した指導 方法等充実調査研究</u> 」として、主と して幼稚園における障害のある幼 児、特別な配慮を必要とする幼児を 含む教育の全国的な現状と課題を、 質問紙調査と実地訪問調査から探 った。 研究代表：太田俊己、共著者：酒井 幸子、守巧、橋本淳一、他全 18 名 (19-26 頁)
	6. 「特別な配慮 を必要とする幼 児を含む教育・保 育の実践課題に 関する実態調査 ～令和元年度 文 部科学省委託研 究からの概要報 告～」	共	令和 2 年 12 月	日本乳幼児 教育・保育 者養成学会 第 1 回研究 大会発表	令和元年度文部科学省の「幼児教育 の教育課題に対応した指導方法等 充実調査研究」から、 <u>幼稚園等にお ける特別な配慮を必要とする幼児 を含む教育の実践上の諸課題</u> を明 確にし、 <u>今後の指導の充実に向けた 条件や要因</u> を指摘した研究の概要 を、今後の当該の研究に広く資する ことを目的に報告した。
	7. 「保育内容の 実践における暗 闇空間の効果と 可能性」	共	令和 4 年 3 月	山村学園短 期大学紀要 32 号 (55 頁)	<u>暗闇空間</u> を大学内に設置し、実際に 園児が体験することでどのような 効果・反応が得られるのか、引率の 教諭へのインタビューを通して、 <u>保 育におけるスヌーズレン的暗闇空 間の効果と可能性</u> を探究した。共著 者：巢立佳宏、酒井誠、山村穂高、 橋本淳一（ - 頁）
子ども家庭 福祉・社会 福祉	(著書) 1. 『基本保育シ リーズ第 20 巻保 育実習』 (教育実践記録等) 1. 「大学が連携 する地域子育て 支援～つどいの	共	平成 27 年 12 月	中央法規出 版 (268 頁)	(再掲のため、略)
		共	平成 21 年 3 月	平成 20 年 度山村学園 短期大学子	「 <u>つどいの広場(ぽっぽ)</u> 」の開設 をとおして、山村学園短期大学・ 子ども教育センターを事例に、行

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	広場(ぽっぽ)の開設をとおして～」			ども教育センター調査研究事業報告書 (69 頁)	ってきた地域子育て支援を振り返り、今後の <u>大学が連携する地域子育て支援</u> のあり方を探った。担当章では <u>地域子育て拠点</u> としてのつどいの広場（ぽっぽ）の課題と大学の果たすべき役割を探った。共著者：三好勝、 <u>橋本淳一</u> 、齋藤稔子他全 6 名(64-69 頁)
	2. 「地域子育て支援拠点事業における社会資源及び子育て支援のニーズ」	共	平成 24 年 6 月	日本子ども家庭福祉学会第 13 回 全国大会要旨集 (166 頁)	<u>地域子育て支援拠点事業</u> （ひろば型・センター型）の利用者を対象としたグループインタビューから、 <u>社会資源と子育てに関するニーズ</u> を探り、利便性へのニーズと選択的利用の実態を明らかにした。共著者： <u>橋本淳一</u> 、鈴木孝子(132-133 頁)
	3. 「社会資源を活用した町型子ども・子育て支援ネットワークのあり方に関する研究－研究成果報告書－」	共	平成 27 年 3 月	科研費研究報告書 (平成 24～26 年度 科学研究費助成事業・ 基盤研究 (C) 課題 番号 24530773) (156 頁)	地域を基盤とした自然や社会環境を活かした町型の <u>子ども・子育てのシステムやネットワークの構築</u> に関するいくつかの知見を、グループインタビューによる質的調査、アンケートによる数量調査の結果を踏まえ、研究成果として報告した。 担当部分では、数量調査結果の分析を行った。共著者：鈴木孝子（研究代表）、 <u>橋本淳一</u> 、村石理恵子、山村穂高 (28-34、53-66、74-77 頁)
	4. 「ワークスタイルによるワーク・ライフ・バランス観と子ども・子育て意識の研究」	単	平成 28 年 3 月	山村学園短期大学紀要 26 号 (144 頁)	地域の環境、 <u>社会資源</u> との関わりの中で子育てを行う B 町の保護者を対象に、質問紙による数量調査から、 <u>Z 検定や因子分析を用いながら、ワークスタイル（働き方）の違いによるワーク・ライフ・バランス観や子ども・子育て意識の実態・実情について明らかにした。</u> (109-130 頁)